

2011年
1月24日(月)
13797号

KAIJI PRESS

海事プレス



◆「コンテナターミナルを自宅に構築したい」。港湾好きが極地まで高じると、こう考えるようになるという。世界中を巡るコンテナが浪漫を駆り立てる。巨大構造物であるガントリークレーンに非日常を見る。荷役風景こそ最上の癒し。そんな港湾マニアとも呼べる人々の間ではかねて、埠頭全体をジオラマで再現したいとの需要が高まっていた。

◆彼らの夢が現実になる日が近づく。国内外の船社のコンテナとトレーラートラックを150分の1のNゲージサイズの模型で再現した「ザ・トレーラー・コレクション」が人気のトミーテックが今春、シリーズ初の荷役機器として、トップリフターを商品化するからだ。同社の企画担当者は「埠頭全体のジオラマ化」を求めるファンの熱い声を聞き、一昨年半ばから、トップリフターをラインナップに加える構想を練ってきた。

◆「トップリフターとは素晴らし過ぎます。既にリーチスタッカー(マルカ社製、ザ・建機

第3弾)は持っていましたが、コンテナをうまく固定できず、室内での港湾荷役(?)に苦勞していました(笑)。トップリフターが発売されるなら、CY作業も安心。パンプールでコンテナを山積みできるほど、トレーラー・コレクションを買わないといけませんね(笑)」。港湾マニアの急先鋒、ロジラテジーの延嘉隆代表取締役は、トップリフター商品化の報に喜びのコメントを寄せる。

◆ロジラテジーで物流コンサルティングを手掛ける延氏は、本業とは別にライフワークを持つ。「コンテナ写真家、港湾写真家」としての活動だ。本気かどうかは説明不要。「延嘉隆」の海上コンテナ写真集(<http://container-gallery.jp/>)を見れば分かる。今後はコンテナ、港の風景に加え、港湾荷役、港湾で働く人々にレンズを向けたいという。

◆「私は物凄く格好良いと思って撮っている。港湾の素晴らしさを、物流業界以外の人たちにも伝えていきたい」と語る氏。だが、個人サイトであるが故、船社への撮影許可、サイトへの掲載許可の取得が困難、という壁に直面する。これまで寛大にも撮影に応じたのは、日本郵船、OOCL、宇徳の3社とか。船社各位。氏の写真集への協力は、物流業界の認知度向上への小さな一歩かもしれません。(松下優介)